

いよいよ読書週間が始まります。それぞれの学校で、図書館教育担当の先生や司書の先生を中心に、また、図書委員会の子どもたちと、読書活動推進のための活動を計画されていることと思います。今月は、コロナ禍の中でもできる子どもと本をつなぐ活動を紹介します。学校、子どもたち、それぞれの実態に合わせて、できそうなこと、既に計画されていることに加えて、実践してみてください。

★ **先生または図書委員会、地域の方々によるおすすめの本の紹介**

先生方（図書委員会、地域の方々）が子どもたちにすすめたい本を選び、所定のカードにおすすめのポイントを書き（POPの感覚で）、図書館内に特設コーナーを設け、本と共に展示します。カードに先生（図書委員会、地域の方々）の写真をそえると、子どもたちは一段とおすすめの本に興味を持つことでしょう。

* おすすめの本は、子どもたちが借りやすいように、図書館内にある本であることが大切です。「あの先生（あの先輩、あの方）、こんな本が好きなんだ！」と、展示した本の前での子どもたちの声が聞こえてきそうです。

★ **「こんなときだからこそ読んでほしい本のリスト」作り**

司書教諭や学校図書館支援センターに依頼し、「今こそ読んでほしい本のリスト」を作成し、全校児童・生徒に配布します。子どもたちが学校図書館や最寄の図書館で本を借りるときなどの参考にします。本や図書館を通じて、自分の知らない世界と通じることができた経験は大人になっても忘れられないことでしょう。

また、リストを実態に応じてビンゴカードにして、一人一枚ずつ配布し、縦横斜めに一列そろったら、図書委員からしおりなどを配るのも、子どもたちが楽しみながら読書をするにつながると思います。

どしゃぶりのひに	としょかんライオン	はれときどきぶた
たまごのはなし	のはらうた	エルマーのぼうけん
ダーウィンのミミズの研究	島ひきおに	ぼくは王様

* 中学年
ビンゴカードの例

☆ 英語で読み聞かせ

ALT（英語担当教師）にお願いして、読み聞かせをしてもらったらどうでしょうか。子どもたちがよく知っている「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」など・・・いつもとはちがった感想が聞かれそうですね。

☆ 給食時間に放送

給食時間を利用して、短い作品の朗読はどうでしょうか。ブックトークなどもよいでしょう。また、図書委員会の子たちや先生からのおすすめの本の紹介をしてもよいと思います。放送後、昼休みに本を借りに図書館にやってくる子どもたちが増えることでしょう。

☆ 1階廊下にコーナー展示

読書週間の間、子どもたちがたくさん通る1階廊下に（安全面を十分考慮して）読書週間のコーナーを設けてみましょう。コーナーには、各学年の教科書に載っている作者の作品や季節に合ったおすすめの本などを展示してみましょう。コーナーの周りには、温かい掲示物があると、子どもたちの心がなごみます。

☆ ○○小学校、○○中学校 心に残っている本のベスト10

どんな本が子どもたちの心に残っているのでしょうか。その理由は？投票用紙を配布し、ベスト10として発表してみましょう。学年、学級のベスト10を発表してもよいですね。学校、学年、学級のベスト10の本はみんなで読みたいですね。

☆ 読書通帳の活用

本の名前、作者名、読んだ日、メモ欄（簡単な）など、読んだ本の記録を貯めていくことで、子どもたちの読書意欲を高めましょう。読書通帳は、小学校、中学校、大人になっても継続して記入していくと良いでしょう。

表紙や大きさは、本物の通帳と同じくらいの大きさ（低学年は書きにくいかもしれませんが）にすると、持ちやすいと思います。



読んだ冊数で
しおりのリボンの
色を変えています。

*配布しおりの例

☆ 図書クイズ

図書クイズは、図書館に置いてある本を読むと答えがわかるクイズです。子どもたちが答えを知りたくなるクイズを作って、廊下に掲示すると、答えが気になった子どもたちが、図書館に足を運んでくれようになるでしょう。

ヒントとして、答えが書いてある本がどの本棚にあるのかがわかるようにすると良いですね。

*人物クイズの例

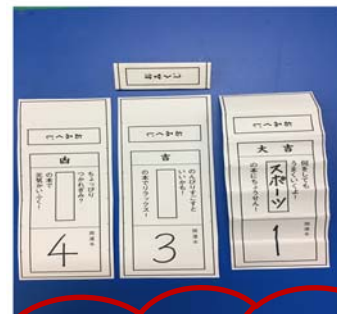
アンネ・フランク
はどこで生まれた？

渋沢栄一が立ち上げた会社はだいたい
いくつある？

イチロー選手の子どもの頃の夢は何？

☆ 本のおみくじ

貸し出しカウンターに、「開運本」が書かれたおみくじを用意して、図書館を利用する人に引いてもらいます。おみくじに書かれた本を借りる（貸し出す）ことで、今まで読んでことがないジャンルの本を読むきっかけになります。「開運本」には、読んで元気が出るような本を選びましょう。



「開運本」はまとめて管理し、おみくじを引いた人から見えないようカウンターの下などに置くとワクワクドキドキすることでしょう。

*おみくじの例



☆ 本の帯作り

みんなに紹介したいお気に入りの本に、本の帯を作ってみましょう。帯の文を読んで「この本読みたい！」と思う人は多いことでしょう。帯に書く文章の文字数は限られています。見出し、呼びかけた文等で、読者の心をぐっとつかみましょう。

本の帯を使った10月の展示・掲示



本の帯はどれも長方形！

中心を折り，葉の形に切ると，簡単に葉っぱが出来上がります。虫食いの部分を切ると，秋の葉っぱらしくなります。



本の帯は裏が真っ白！

帯の裏を利用して，真っ白な木を作り，色とりどりの帯から型抜きをしたものを貼ります。あっという間に，カラフルな木の出来上がり！ さあ，どんなことに利用できるでしょうか？ 図書委員会の子もたちと話しながら，図書館を明るく彩ってみましょう。

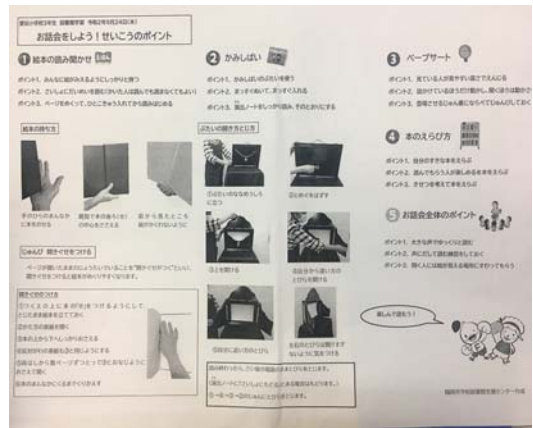


3枚を背中合わせに接着します。

Hello! 学校図書館

今月は愛宕小学校3年生
の総合図書館での学習につ
いて紹介します。

9月24日、小雨が降る中、愛宕小学校の3年生102人が「図書館学習」で総合図書館にやってきました。1年生にお話会をするための、読み聞かせの仕方、紙芝居の読み方、ペープサートの仕方、さらに、本の選び方などを、読書相談員から学びました。大変意欲的に学ぶ姿に感心すると同時に、たくさん質問をする子どもたちの姿から、学校にもどってからのお話会の成功が目に見えるようでした。



学校図書館にあるたくさんの本に光を当てましょう

学校図書館の本棚には、子どもたちを引き付けるたくさんの本があります。それらの本を子どもたちの手にとどけ、本の世界へ子どもたちをいざなうには、導き手や何らかのきっかけが必要です。

図書館は本のある楽しい場所であると同時に自分の世界を広げてくれる(くれた)場所であることを子どもたちに感じてほしいものです。

本の紹介やブックトークのテーマ

10月

「〇〇の秋」

読書の秋 みのりの秋 食欲の秋

スポーツの秋 芸術の秋

おいしいものいっぱいの秋

「食べることを考える」

「もうすぐハロウィン」

「秋の七草」「秋の花」

など

11月

「秋の山はたからものがいっぱい」

「さあ、ぼうけんにでかけよう！」

「木の実でつくってみよう！」

「むかしばなし あれこれ

知ってる？」

「秋のたのしみ」

「じっくり よんでみよう」

など

11月生まれの文学者



古田 足日（ふるた たるひ）と「おしいれのぼうけん」

愛媛県川之江町(現四国中央市) 1927年11月29日生まれ 2014年没
小さい時の古田氏の家の中は、本だらけでした。小学校の低学年で兄が友だちから借りてきた「幼年クラブ」「少年倶楽部」を読むようになり、5年生で「なりけり」で終わるような「太平記」をはじめ、父の本棚からおもしろそうな本を乱読していました。

評論家だった古田氏が、「ぬすまれた町」以降、児童文学を書くようになったのは、今までの児童文学が古田氏の考えている児童文学と違っており、また、評論を書くより児童文学を書く方が原稿料が多く生活しやすかったからだそうです。

「おしいれのぼうけん」は、子どもの生活を子どもの側からかいた絵本という新しいシリーズを制作するために、何度も保育園を取材してまわり、「子どもを押し入れの上下に入れた話」や、人形劇の「ねずみばあさん」を子どもたちが心底怖がるという話から触発されて書いた作品です。古田氏の児童文学作品は、「宿題ひきうけ株式会社」(日本児童文学者協会賞受賞)、「大きい1年生と小さな2年生」,「ロボット・カミイ」などがあります。

たかし よいち と「竜のいる島」

熊本県熊本市 1928年11月10日生まれ 2018年没

日本でほとんどただ一人、子どものための考古学読み物を書ける作家として知られているたかし氏は、小学校4年の時に「シベリアの氷づけのマンモス」という雑誌記事を読んで以来、ひそかにマンモスへの夢を持ち続けており、1954年北海道の襟裳でマンモスの白歯が発見されたことで、マンモスの夢が強くよみがえったそうです。

25歳の時、A・T・ホワイト女史の「埋もれた世界」を読んで大きな衝撃と感動を受け、ホワイト女史に手紙を送ると、子どものためのノンフィクション文学の重要性を説いた返事をもらったことで、その後のたかし氏の生き方が定まったそうです。

「竜のいる島」は、古代首長竜をめぐる冒険ファンタジーで産経児童出版文化賞大賞を受賞し、国際アンデルセン賞優良作品にも選出された作品です。

たかし氏は、考古学や古生物学に基づくノンフィクション作品を数多く手掛け、児童文学に新たな分野を開拓し、故郷の九州を舞台にした創作民話も多数発表しました。

あとがき

朝晩の涼しさに秋の深まりを感じています。学校現場では、新型コロナウイルス感染予防に加え、インフルエンザ感染の予防と、さまざまな安全対策に追われていらっしゃると思います。お疲れ様です。

先日、子どもの頃に読んだ絵本を図書館で見つけ、懐かしい気持ちでいっぱいになり、読んでみました。なんだかとても温かい気持ちになり、小学校時代のさまざまなことを思い出しました。子どもたちがおとなになったとき、そんな本があれば良いなと思います。「読書の秋」です。学校、家庭でいつもより、少し読書の時間を増やしてほしいものです。

(足立)

図書館員のひみつの本棚 第174回

今月は読み応え十分の歴史小説です。

『凍てつく海の向こうに』

ルータ・セペティス／作 野沢 佳織／訳 岩波書店 2017年 ¥2100(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生★★☆

高校★★★★ 一般★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

1945年1月。ナチス・ドイツ政府は、孤立した東プロイセンからバルト海を經由して人々を避難させる「ハンニバル作戦」を敢行した。この作戦に使用された大型船の一つが<ヴィルヘルム・グストロフ>号。

海運史上最も悲惨な沈没事故を引き起こすことになるこの船に乗ることになった4人の若者達。看護師の経験があり、ドイツ人の母を持つリトアニア人の女性、ヨアーナ。絵画修復士をしていた東プロイセン生まれの青年、フローリアン。赤ちゃんを身籠り疎開先から逃げてきたポーランド人の少女、エミリア。ヒトラーを盲信し、妄想の世界へといつも逃げ込んでいるドイツの水兵、アルフレッド。4人はそれぞれに秘密を抱え、この戦争を生き抜いていた。

戦後ほとんど知られることのなかった史実をもとに書かれた歴史小説。

<子どもに手渡す時のポイント>

380ページを超える大作ですが、歴史の悲劇的な部分だけでなく、4人の秘密が少しずつ明かされるミステリアスな展開や、美男美女として描かれているヨアーナとフローリアンがお互いに惹かれていく恋愛小説の側面もあり、読者を物語へと惹き込んでいきます。ラストは一筋の光を残す展開となっており、読後感も悲壮感のみではありません。

語り手の4人が入れ替わりながら一つの物語を語っていくので、そこにつまずきそうな子どもには、構成について手渡すときに説明しておくといと思います。また、歴史的な史実や背景については、あとがきにわかりやすく書かれているので、その部分を紹介してください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

発行： 福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課
電話： 092-852-0639
FAX： 092-852-0801

